

松阪牛

かわら版 創刊号

松阪が世界に誇る逸品、松阪牛。その歴史は古く、松阪地方では古来より農耕用の役牛として、但馬（兵庫県）生まれで紀州育ちの若い雌牛を肥育していたことに由来すると伝えられています。

時移り平成。匠と呼ばれる農家たちは、近代化に背を向け、長い年月をかけて培った肥育の技と深い愛情を傾け、松阪牛を丹念に育て続けています。

安全で安心な松阪牛を消費者の皆さまにお届けしたいとの一心で、平成十四年八月には、松阪牛一頭一頭の個人情報データベースを公開する「松阪牛個別識別管理システム」も稼動しました。

農家、流通、精肉、販売。平成の松阪牛の陰には、多くの関係者のたゆまぬ努力と、真面目な姿勢があります。

松阪牛を身近に感じてほしい、もっと知ってほしい。

私たちはそんな熱い思いを込め、「松阪牛かわら版」を創刊します。

平成十九年十月

三重県・松阪市役所農林水産課



昭和29年9月21日、当時の松阪駅前で撮影された写真です。

古い駅舎には「松阪駅」の文字。黒々とした立派な体格の松阪牛は、これから汽車に揺られて一路東京へ、出荷されようとしています。牛の周りに並ぶのは、肥育農家や家畜商。

当時、松阪駅から出荷される松阪牛は、こうして駅舎の前で写真を撮影するのが習慣になっていました。

写真は、東京の料理店に掲げられ、この肉が松阪牛だということを証明していたそうです。消費者に牛や肥育農家を明らかにしようという考えは、昔も今も変わりません。

松阪牛ものがたり

信頼への模索①

千葉の乳牛がBSEかもしれない。平成十三年九月十日、千葉県で飼育された乳牛に、BSE(狂牛病)の疑いがあると報じられると、松阪市役所内には緊張が走った。

農林水産課は急ぎよ、松阪牛を肥育する農家に対し、感染源とされる肉骨粉を牛の飼料に使っていないか確認調査に走る一方、全国のマスコミから次々と寄せられる電話取材の対応に追われていた。



写真はいずれも松阪肉牛共進会会場で。共進会は年に1度開かれ、その年の松阪牛の女王を決定します。



「松阪牛は大丈夫なのか」。終日鳴り止まない机上の電話に、同課の職員は松阪牛の知名度の高さを再認識すると同時に「これはえらいことになるぞ」と、直感。「どうか判定はシロであってくれ」と、英国獣医研究所の最終診断結果を祈るような気持ちで待った。

後に、当時の農相と厚労相の私的諮問機関であるBSE問題調査検討委員会が「重大な失政」と指摘するように、国の対応が後手に回る間にも、消費者の牛肉に対する不安は広がる。

九月二十二日未明、農水省は「国内初の狂牛病確認」を発表。同日午前、三重県庁からのファクスで正式な判定を知った農林水産課には、落胆の深いため息が漏れた。

この先、何が起こるのか。世界ブランド松阪牛にとっても、この日が試練の始まりになるうとは、誰も知る由もなかった。

国内初のBSE発生から現在に至るまで、松阪牛の信頼への模索を毎号連載します

つづく

ご存知ですか？ 松阪牛個体識別管理システム

松阪牛に添付されているシールをご存知でしょうか？

シールに印字されている、10ケタの個体識別番号を、消費者の皆さまのパソコンや携帯電話に入力すれば、松阪牛の出生から精肉までの履歴を瞬時に知ることができます。



どこで生まれ、どのような餌を食べて育った牛なのか、牛の血統や、農家の情報など、牛の一生を知ることができる仕組みになっています。

松阪牛シールは、安全で安心な松阪牛の信頼をより確かなものとする証なのです。

このシールが信頼の証

